

地域おこし協力隊活動報告書

活動団体	南九州市茶業振興会
役職	
氏名	窪 拓摩
着任日	令和3年2月1日

活動月	令和5年6月(着任2年5ヶ月)
主な活動	1. 梅雨の合間に茶摘採競技大会開催！ 2. ゴッソイ祭り 新体制で本格スタート 3. 着任後初となる対面での協力隊研修会に参加

1. 梅雨の合間に茶摘採競技大会開催！



写真: 広大な茶畑の景色をドローンで撮影(汐見原茶団地より)

今年で49回目を迎える、乗用型茶摘採競技大会が梅雨シーズン中の晴れ間となった月末に開催されました。知覧茶の生産エリア各地の茶工場代表が二人一組となり、摘採スピードや安全面、運転操作の正確さなどの合計得点で審査をされます。

地元の方々は、茶畑を動く乗用型茶摘採機は見慣れているかと思いますが、大会の風景をSNSのライブ配信をしたところ、視聴者からは「実際に現地で観覧してみたい」「乗用型に乗って写真をとってみたい」などといったコメントが入り、次回の50回記念を開催する際は、一般の方々も応援ができる体制ができれば活気あるイベントになりそうだと感じました。

地域おこし協力隊活動報告書



写真:大会スタートのフラッグに合わせて動く乗用型茶摘採機など(窪撮影)

▼メディアでの乗用型茶摘採競技大会ご紹介動画はこちら

NHK <https://www3.nhk.or.jp/lnews/kagoshima/20230629/5050023481.html>

こういった、地元でのお茶イベントなどを開催する際、現場の作業従事者として参加はもちろんのこと、対外的な発信業務やイベント告知、さらには現場を伝えるカメラ撮影なドローン操縦と、私が担当している業務量は意外と多く、見えない部分でのウェイトがあるポジションであります。

私の活動任期も後半に入っており、後任を意識する期間となってきました。後任の方には、できるだけフリーポジションを取りながらも、茶業関係者や団体と円滑にコミュニケーションが取れるような環境づくりができるための適正な業務内容を、今一度見直している状況です。

2. ゴツソイ祭り 新体制で本格スタート



写真:えい ゴツソイ祭り会議の様子

先月から動き出した新体制でのゴツソイ祭り運営メンバーですが、当月も11月開催にむけ企画のアイデアだしや体制を検討するミーティングを活発に実施しております。

従来のゴツソイ祭りを残しつつも、新たなメンバーを中心に作り上げる祭りのあり方などについて、毎回熱いやりとりがなされており、ただやらされているだけの当てつけメンバーではなく、イベント成功するために能動的にアクションをうつ方々が集まってきてよかったなと現段階でも感じています。

今までの大きな変更点の一つとして、なんといっても夏祭りから晩秋開催となったことでの会場の作り方や、花火などの演出、ステージ、地元との接点づくりなど、様々なことをクリアしていかなければならないことがわかります。

前向きに、魅力あるイベントとなるよう進めていきたいと思えます。

3. 着任後初となる対面での協力隊研修会に参加



地域おこし協力隊活動報告書
写真: 協力隊交流会の風景(鹿屋市 カピックセンターにて)

協力隊着任時がパンデミック真っ只中だったこともあり、対面での協力隊同士が集まる会に出席したことがなかったのですが、当月久々に交流会が開催され、参加をしてみえました。会の中では、協力隊同士にしか深く理解できない悩みや課題について情報交換をする機会が多くあり、こういった会の重要性を強く感じたところです。

また、現在私が所属しているような茶業振興会≒南九州市役所茶業課という特殊なポジションを持つ協力隊の視点と、個人の生業をエリアの活性化に繋げているポジションをとっている協力隊の視点では、同じ協力隊という制度でありながら、全く違った見え方をしているのだと改めて気付かされました。

ある意味での、抽象的な部分も多い地域おこし協力隊の制度であるがゆえ、いわゆる「何でも屋」という周りから認識で、雑務や無茶振りをされモチベーションが下がりきっている隊員も参加されており、採用する自治体とのコミュニケーションや理解しようとする姿勢の大切さを感じた研修会でした。

以上簡単ではございますが、当月の報告といたします。